

令和6年度永年勤続医療従事者表彰式 344名が表彰される



理事 稲富 仁



去る10月31日（木）ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城に於いて、令和6年度永年勤続医療従事者表彰式が行われた。

同表彰式は会員が開設する医療機関及び医師会に20年勤務する医療従事者に対して行うもので、当日は小渡敬沖縄県医師会代議員会副議長、来賓に糸数公沖縄県保健医療介護部長のご臨席の下、会員施設77施設から344名の方々が表彰された。

始めに、田名毅沖縄県医師会長から受賞者へ以下のとおり激励の挨拶があった。

「今回受賞される皆様につきましては、一言で20年と言いましても、平坦な道のりではなかったと思います。たゆまぬ努力を重ねてこられた皆様ご自身はもちろん、ご家族の理解、職場の上司や同僚の皆様の協力に支えられ、同一の医療機関で職責を全うしてこられたものと思います。これまでの保健医療福祉に対し、献身的に活動されたことに深く敬意を表し、改めて

感謝申し上げます。

今年は、医療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等、3つの報酬が同時に改定される6年に1度のトリプル改定の年となりました。私どもが関わる医療や介護における課題に2025年、2040年問題があります。2025年には団塊の世代が75歳以上になり、2040年にかけては高齢者の人口が増加するだけではなく、生産年齢人口が減少するという問題にも直面し、医療費や介護費の増大、介護等を担う人材確保がより深刻化すると考えられます。

また、第8次医療計画、医師の働き方改革等もスタートしており、医療界においてきわめて重要な時期を迎えているところであります。

幸いにして、今回表彰を受けられる皆様は、非常に経験豊かな方ばかりでございます。永年培った経験や知識、技術を活かし、地域に根差す医療職者として、良質な医療の提供に努め、引き続き、本県の保健医療福祉の向上にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

この表彰式は1973年から開催されている歴史の深い会でございます。当時は3年勤務者の方から表彰していたという事ですが、だんだん医療従事者が増え、今では今回のように20年の勤務者である皆さんを表彰しております。歴史のある表彰式であり、沖縄の医療従事者の方々の気持ちに添えるべく医師会が取り組んできた事業とご理解いただけたらと思います。本日は随行者の方々もたくさん参加していただいているかと思うので、懇親の場では楽しい時間を過ごしていただけたらと思います。」

引き続き、田名会長より各施設の代表者へ表彰状の授与が行われた。

今年度の授与式はスムーズな進行により例年のように長時間にならず高評価であった。

その後、糸数沖縄県保健医療介護部長より、以下のとおり来賓の挨拶があった。

「はいさい、ぐすーよー、ちゅうがなびら。

令和6年度永年勤続医療従事者表彰を受けられました皆様、誠におめでとうございます。

長年に亘り、医療現場において職務に精励され、県民の健康を守り続けていただいていることに心から感謝を申し上げます。

職務を全うする中では、大変な御苦労があったものと拝察いたします。

今後とも、これまでに培った経験を活かしながら、地域において指導的な役割を果たし、後進の模範的な存在でおられることを期待しております。

さて、県では広範かつ継続的な医療の提供が必要な五疾病・六事業、在宅医療の充実及び医

療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた第8次沖縄県医療計画を推進し、地域医療、連携体制の確保に取り組むとともに、本県の重要課題の一つである健康長寿復活に向けて、「2040年に男女とも平均寿命日本一」を目指してまいります。

また、今後急速に進む沖縄県内の高齢化に向けて、県庁組織を10年ぶりに改編し、これまでの保健医療部から保健医療介護部を設置し、今後増大する医療と介護のニーズに適切に取り組んでまいります。

本県の地域医療提供体制の確保及び健康寿命延伸等の取組の推進にあたりましては、医療、介護の現場でご活躍されている皆様との連携が必要不可欠なものと考えておりますので、なお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、永年勤続医療従事者表彰を受けられました皆様の御健勝と御活躍、並びに沖縄県医師会の益々の御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

ゆたさるぐとう うにげーさびら。」

引き続き、受賞者を代表し、大浜第一病院看護師の湧上尚美さんから以下のとおり謝辞が述べられた。

「本日はこのような式典を開催して頂き、誠にありがとうございます。

田名毅医師会長を始め、多くの方々から温かいお言葉を頂き、永年勤続医療従事者を代表して厚く御礼申し上げます。



長きにわたり勤務することができましたのは、職場である大浜第一病院、石井理事長を始め、大城病院長、諸先輩方のご指導及び同僚の皆様のご理解、ご協力があったこと、また勤務するにあたり支えてくれた家族があり、常に周りに助けられ今日まで頑張ってきたと実感しています。どれ一つ欠けても20年の勤務はなかったと思います。

20年という長いようですが、振り返ると短く感じています。

医療現場の環境は飛躍的に進化を遂げており、一例では20年前には1冊の紙カルテを医師や同僚と奪い合いながら赤青の色鉛筆で経過表の記入をしていました。しかし今ではモバイルを介し、電子カルテへ送信入力となっています。そのような変化の流れに取り残されず新しいことに対応しようといつも必死だったように思います。

また、皆様もご承知のとおり2020年からは新型コロナウイルスのパンデミックを経験し、医療現場でも「当たり前が当たり前ではなくなる時」を経験しました。物事の見かた、考え方

を変えざるをえない状況となり、その中でも守らなければいけないものは何か絶えず考えていたことが昨日の事のように思い出されます。環境の激変に戸惑っている私と異なり、若い世代のスタッフはいとも簡単に状況に順応していることにとても驚き、頼もしく感じました。

今後もより加速し進化し続ける医療現場に次世代の若いスタッフと協働しながら残りの看護師人生を送りたいと思います。今後とも引き続き皆様からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

最後に沖縄県医師会を始め、ご来賓の皆様の御活躍を祈念し挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。」

引き続き行われた懇親会では、小渡代議員会副議長の乾杯の音頭で祝宴に入った。多数の方々が参加され、冒頭から乾杯の挨拶もかき消されるほどの盛況ぶりであった。

今後もっと参加者が増え、多くの方々と交流できるように、是非各施設長から職員へ参加のお声掛けをお願いしたい。

